

船舶事故調査報告書

平成29年11月15日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 佐藤 雄二（部会長）
 委員 田村 兼吉
 委員 岡本 満喜子

事故種類	乗揚
発生日時	平成29年5月5日 07時55分ごろ
発生場所	広島県呉市呉港呉区 <small>こうるめ</small> 小麗女島灯台から真方位053°700m付近 （概位 北緯34°14.6′ 東経132°31.5′）
事故の概要	プレジャーボート <small>イルゼアンドエイスケ</small> Ilse & Eisukeは、南東進中、浅所に乗り揚げた。 Ilse&Eisukeは、左舷プロペラ軸の曲損等を生じた。
事故調査の経過	平成29年5月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 なお、平成29年8月20日、1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート Ilse&Eisuke、16トン 235-47258兵庫、株式会社永和地所 12.30m (Lr) × 4.70m × 2.61m、FRP ガソリン機関2基、1,060.6kW（合計）、平成19年3月
乗組員等に関する情報	船長 男性 60歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 平成23年6月20日 免許証交付日 平成28年5月9日 （平成33年6月19日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	左舷プロペラ軸及び両舷プロペラ翼に曲損、右舷船底部に欠損を伴う擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西北西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期、潮高 245cm
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、家族2人を乗せ、平成29年5月5日07時25分ごろ阪神港 <small>あまがさきにしのみやしや</small> 尼崎西宮芦屋区のマリーナに向けて広島県広島港第3区のマリーナを出航した。 船長は、操縦に当たり、広島県江田島市 <small>のうみ</small> 能美島東方沖を約20ノットの速力で南進した。 本船は、予定針路を変更し、呉港北西方沖で左に転針して同港北西

	部を南東進中、07時55分ごろ浅所に乗り揚げた。
その他の事項	<p>船長は、予定針路を変更する際、GPSプロッターを拡大して見るなど水路状況の確認を行っていなかった。</p> <p>船長は、呉港付近の航行経験がなかった。</p> <p>本船が乗り揚げた浅所は、呉市大麗女島^{おおうるめ}から北東方に延びる鵜ノ糞と称する幅約20m長さ約220m最低水面上の高さが2.4mの干出浜であった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、能美島東方沖を南進中、船長が、呉港付近の航行経験がない状況下、予定針路を変更して呉港北西部を航行する際、水路状況の確認を適切に行っていなかったことから、鵜ノ糞と称する干出浜に向けて航行していることに気付かず、同干出浜に進入して浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、能美島東方沖を南進中、船長が、呉港付近の航行経験がない状況下、予定針路を変更して呉港北西部を航行する際、水路状況の確認を適切に行っていなかったため、鵜ノ糞と称する干出浜に向けて航行していることに気付かず、同干出浜に進入して浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航行経験のない海域に接近する場合、水路状況の確認を適切に行うこと。